「核兵器をなくすために、皆さんの力をお貸し下さい」という山口さんの言葉が深く胸に響きました。 今、一番大切なのは、山口さんから渡されたバトンをみんなで繋ぐことです。

吉永小百合

監督・プロデューサー：稲塚秀孝
出　演：山口彊　山崎年子（長女）グエン・ドク　ジェームズ・キャメロン
語　り：加藤登紀子

テーマ曲：ダニーボーイ
日本語詞・歌：加藤登紀子
http://hibaku2.com　©タキシーズ 2011

助成　文化芸術振興費補助金

山口彊から世界の人々への遺言

核は人間の世界にあってはいけない。核は平和的に利用する（原発）と言っても技術的にも倫理的にも問題があり、事故は止まらない。核が無くならないなら、人類は滅亡に近づく。それを伝えるために、今も生かされているという「宿命」があると思っている。

2007年3月16日　山口彊

罪もない人々に原爆を投下したこと、それは恐ろしいことです。山口さん、あなたはそこにいて、すべてを目撃しました。あなたは選ばれた人なのです、二度と原爆を使ってはいけないというメッセージを伝えるために・・。私は映画監督として、山口さんのメッセージを世界に伝える作品を作ることを約束します。

ジェームズ・キャメロン監督

ジェームズ・キャメロン監督と山口彊

二重被爆とは・・・

1945年8月6日広島、8月9日長崎に原爆が投下された。二重被爆とは、広島と長崎で二度被爆したこと。4000度を越える高熱と爆風、一瞬のうちに人間は蒸発した。両市合わせて死者21万人、今も原爆症に苦しむ人は30万人。広島と長崎の距離、350キロ、わずか75時間で2つの街で被爆した「二重被爆者」の存在は長く歴史のかなたに埋もれていた。2006年春、記録映画「二重被爆」では山口彊を始め、7名の二重被爆者の証言があり、国内外に衝撃を与えた。それから5年・・・・いま新たな映画が完成した。

山口彊さん

山口彊（やまぐち つとむ）1916年3月16日～2010年1月4日

長崎市生まれ。旧制中学卒業後、三菱重工長崎船所に製図工として入社。昭和18年、久子と結婚。長男を病気で失い、昭和20年2月次男捷利（かつとし）誕生。5月から広島造船所に3カ月間の出張。8月6日朝、造船所に向かう芋畑を歩いていた時に被爆。左半身に大火傷を負う。爆心から3キロ地点だった。翌7日壊滅状態の広島市内を横断し、避難列車に乗り妻子が待つ長崎に向かう。8日昼長崎駅に到着。家族と再会を喜び合うが、翌9日二度目の被爆。戦後は原爆症に苦しみながらも、家族の生活を守った。2005年、捷利が全身をガンで死去したのをキッカケに、「自分は生かされた命」と考え、長女・年子のサポートを受けて語り部活動を始めた。

ONE FOR ALL,　ALL FOR ONE.　ひとりは皆のために　皆はひとりのために

メッセージ　加藤登紀子　歌手

山口彊さんの言葉にどれほど胸を打たれたことでしょう。二度の被爆体験を語り継ぐ人として、生かされた93年。歴史はこうした自ら運命をまっとうした人達によって初めて後世に本当の生きた姿で伝わるものだと思います。

メッセージ　門田隆将　ノンフィクション作家

この世には、天から使命を与えられたとしか思えない人がいる。山口彊さんは、その使命を受け止めて生涯を歩んだ人である。このドキュメンタリーは、山口さんのバトンを後世に繋ぐという使命を天から与えられた作品なのである。

キャスト&スタッフ

山口彊　山崎年子（長女）キャサリン・サリバン（平和活動家）グエン・ドク（枯葉剤被害者）ジェームズ・キャメロン（映画監督）チャールズ・ペレグリーノ（作家）
語り：加藤登紀子　テーマ曲：ダニーボーイ　アイルランド民謡　日本語詞・歌　加藤登紀子
監督：稲塚秀孝　撮影：三浦貴広　音声：伊藤健次　照明：川畑博嗣　音響効果：大山豊　EED: 水野幸夫　ミキサー：斎藤直人
協力プロデューサー：中村英雄　シェリー山本　助監督：安永亮介　村山尊弘　編集：油谷岩夫　企画・プロデューサー：稲塚秀孝

官公庁ＤＶＤ定価 ¥88,000（税込）

北辰映像株式会社
〒350-0461埼玉県入間郡毛呂山町中央3-32-3
TEL:049-298-5792　FAX：049-298-5793
E-mail: co@hokushineizo.com